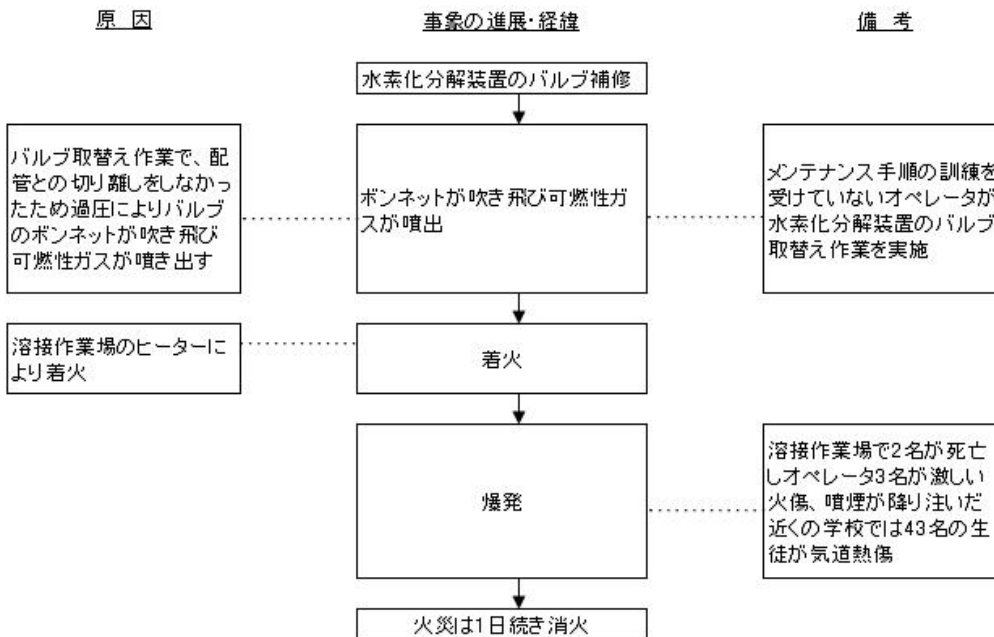




水素化分解装置でバルブ補修工事により爆発火災

事象進展図

00239	水素化分解装置でバルブ補修工事により爆発火災
発災年月日	1995年3月13日
装置	水素化分解装置
運転状況	水素化分解装置のバルブ補修
特徴	バルブ取替え作業で、配管との切り離しなして工事したため、爆発火災



再発防止策
記述無
安全専門家コメント
1. 参考資料に、補修するバルブをロックアウトしなかったとある。エネルギー源を遮断し作業中にエネルギーが復元しないようにすることをロックアウトと呼んでいる。米国労働安全衛生局(OSHA)は作業者の安全を守る目的で装置・機器をロックアウトすることを義務づけ錠を使用している。日本の製油所では自主活動として実施しているが、義務として実施する日が来ることも考えられる。 2. メンテナンス手順の訓練を受けていないオペレータが水素化分解装置のバルブ取替え作業を実施したとあるが、作業を許可する基準は明確になっていたのか。安易にやってしまったのか？作業員に対する教育訓練が十分であったか。

引き金事象発生の原因
バルブボンネットが吹き飛び

事故の引き金事象
可燃性ガスが噴出

事故に関係した直接・間接要因
《人的要因》 ・誤操作・不作為など



水素化分解装置でバルブ補修工事により爆発火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

・ TNO, FACTS, No.14871

▶ 添付資料

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 手動弁 > マニュアルバルブ

🔑 水素系

▶ 関連情報